（別紙4－1）

NPO法人　福祉サービス評価機構Kネット

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0196400063		
法人名	有限会社　横木介護サービス		
事業所名	グループホーム　あふんの里		
所在地	増毛郡増毛町阿分224番地の9		
自己評価作成日	平成24年8月24日	評価結果市町村受理日	平成24年10月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームあふんの里は、雄大な暑寒別岳や日本海に囲まれ、自然に恵まれた環境に位置しています。あふんの里がある阿分地区は民家が点在し、その周りには畑が広がっていて、地域の皆さんとは顔なじみの方も多く、代表者や職員も居住し、いつでも支援できる体制になっています。ご利用者様の皆様は、外出や散歩を通して草花の美しさを感じたり、畑の野菜の生長を楽しんでいます。ご近所さんより、新鮮な野菜や魚の頂き物も多くご利用者様より知恵を頂き、職員と一緒に調理をしています。皆さんはあふんが大好きです。大好きなあふんの里で自分らしく生き生きと安心して暮らしていけるよう、職員共通の思いをもって日々介護させて頂いております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4　高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年9月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当グループホームは、地元で訪問介護を展開している事業所が、住んでいるこの町、この地域,での生活が最後まで可能になるように、との思いで昨年末に設立された。経営母体は訪問介護事業や高齢住居を地元で定着させており、そのノウハウと地元職員の情熱をもってグループホームの運営にあたっている。建物は1ユニットらしく大きくはないが、地元で暮らしてきた人達に馴染のある山々が見渡せ、多くの人の生活の場であった海辺にも近く、今までの生活に近い環境下といえる。ケアについても、一般的な病症から認知症まで、医療側から支えてきた看護スタッフを中心に、地元の介護職による安心感や親近感のある支援で日々を支えている。花畑や野菜の世話、山菜取りなどや、また地元の食材を豊富に使い、利用者と介護職が皆で作る料理等々に見られるような、普段の生活と変わらないグループホームの運営について、今後も大いに期待したい。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をふまえ、職員全員が日々実践の取り組みをしている。職員が現況を毎日確認でき、来訪者にも見ていただけるよう玄関に掲示している。	長年地域で介護事業を展開してきた代表者の理念は、地域で生きることを念頭に据え、職員は介護の基礎として理解し、また玄関に提示するなど、実践として取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町のお祭りや小学校の運動会へ参加し、地域の人との交流を深めている。	小さい集落であるが、交流は密に保たれており、小学校の各行事への参加やボランティアの受け入れなど、積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の方々へ認知症についての講演会を行った。その際、転倒防止･嚥下の体操もまじえ、楽しみながら理解を深めて頂いた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーは、ご利用者様のご家族、町内会役員、町の担当職員、小学校の校長先生と幅広い方々に参加して頂いている。行事等、現状の活動内容の報告を行い、参加者の方々より貴重なアドバイスを頂いている。	家族、町内会役員や地元学校長、行政と各推進委員の出席により、定期的に開催しており、論議された意見等をサービスの向上に役立てている。	定期的な開催について高く評価できるが、議事録の簡潔な整理と、関係者全員が議事録を読めるような体制作りに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして、毎回参加して頂き貴重なアドバイスを頂いている。加えて、町が、OT･STに依頼し町内でのリハビリ訓練を実施、ご利用者様に対して当施設でもリハビリの評価をしてもらい、生活の質の向上につながった。	行政の窓口とはなんでも相談できる関係を保っており、利用者の紹介などもあり、協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしているご利用者様に対し、外す取り組みをしている。また、別のご利用者様は、退院時に臨時のＧＨ会議を開き、身体拘束の是非について検討した。職員を札幌の講習会に参加させ、復命講習を実施している。	現状、家族の許可を得て拘束バンドを車いすに使用しているが、そのことを通じて身体拘束とは何かを学んでいる。	身体拘束をしないケアについては、日頃からの研修やケア実践での気づきが不可欠となると思われるため、虐待防止実践マニュアルの活用による介護員の共有サービスの向上に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ご利用者様の立場になり支援できるよう努めている。外部研修に、職員1名を参加させ復命講習を実施している。また、虐待に関する新聞報道等を活用し、内部で話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などが開催された時に参加し、制度などの理解を深めたいと思うが、学ぶ機会が少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約の締結時は、ご利用者様及びご家族に対して、わかりやすく十分な説明を行い、質問･疑問にも細かな対応を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口電話番号を記載、日々の面会時、ご家族の方と会話できる機会を持ち、不満･苦情があつた場合はそれを受け止め、速やかに対応できるように努めている。	面会時を活用して、意見や苦情について聞き取っている。苦情窓口も機能しており、速やかな対応に取り組んでいる。	利用者家族からの意見や苦情は現状のケアにとって貴重なアドバイスとなるため、お便り等の生活情報の定期的な発信や、家族アンケートの配布などによる、より積極的な姿勢に期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや月1回の職員会議を行う中で意見交換を行い、出来る限り仕事がしやすい環境を整える様に努めると共に、業務上のトラブルがあった時は臨時の会議を開いている。	毎朝のミーティングや月一回のケア会議等から意見や提案をうけており、どのような内容でも真摯に検討し、反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	管理者や介護職員より現状の勤務体制について意見を聞きながら、改善に努めている。又、腰痛対策がとれているか、確認しながら出来るだけ2人での介助に変更している。職員が職場での悩み等があった場合は、いつでも連絡をするように伝えて話を聞いていけるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1ヶ月に1回のグループホームの会議の中で職員研修を推奨している。必要に応じて図書の購入もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、他施設に出向いたり、意見の交換をし、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前より、ご家族を通しご利用者様の意向を確認し要望等をしっかり受け止め、ご利用者様主体の介護を提供出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前よりキーパーソンとなる方を中心に、話し合いに参加出来る機会をもうけ、ご家族の思い、施設に期待する事をしっかり聞き対応している。その際、苦情などはいつでも直接電話などで受ける事を付け加えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時の基本情報やご利用者様･ご家族の方から聞いた話をもとに、その時に必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご家族のかわりとなり、一緒に生活を楽しむ者として、ご利用者様に関わっている。お客様扱いではなく、調理･作業を一緒に行い、日々の生活を豊かに送れるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に協力して頂き、ご利用者様を共に支えていける様にしている。お誕生会にも家族の参加を促し、日々の出来事をスライド風に写真と言葉でわかりやすく説明し家族との信頼関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪者の方が入りやすい声かけ、雰囲気作りを心掛けている。また、ご利用者様の意思を大切にして、なじみの美容室の利用に配慮している。	地域が大きくないため、来訪者や近所の人の交流があり、また近隣の小学校での行事には、顔なじみが揃うため、欠かせない催しとして支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人一人の個性をしっかり捉え、孤立せず仲間意識や相手を思いやる気持ちを大切にして、お互いに補い合える生活が出来るよう支援している。(お誕生会での役割等)		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設半年で、まだそのような退所者はいない。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やちょっとした表情や態度からご利用者様の思いを知り、職員で話し合い、出来る限りご利用者様の意向に沿った暮らしが継続出来る様に心掛けている。	常に一人ひとりの思いを把握し、出来るだけ意向にそった生活を保てるように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用申し込み時に、ご利用者様、ご家族よりライフヒストリーをしっかり聞き、それを職員に周知し、日々の生活のベースとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のアセスメントシートに状態を記入し、ご利用者様の状態を総合的に把握し、状態変化があれば朝のミーティングで方向性を打ち出している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの情報と職員からのご利用者様情報を集約し、ご利用者様の意向とご家族の思いを考慮しながら、その人らしさの幅を広げた介護計画作成に取り組んでいる。	担当介護員が日々の生活から課題を抽出し、家族や本人の意向を踏まえ、チームとしてケアマネが最終立案している。また、モニタリングの徹底で、常にケアの質向上に努めている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子(バイタル・排泄・睡眠等)やケアの内容を毎日記録している。その中で気付いた事などを職員間で共有し、必要に応じてカンファレンスを行い、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外気浴時のイス・テーブルの準備等、早急な対応をしている。臨時の病院受診時(車イス対応の人)車両を速やかに準備している。職員のみでは対応が難しい行事の支援も積極的に行っている。緊急入院の心理的ダメージを少なくするため2週間、職員が1日1回食介に出向いた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は不十分。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医が継続され、職員が同行しての受診支援が行われている。訪問診療や訪問歯科受診も行われている。	かかりつけ医でも協力医でも、ホームで受診対応しており、受診後の結果については速やかに家族に報告し、医療の支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師は配置されていないが、1週間に3回パートの看護師が配置されている。加えて、緊急時の対応や来設、また看取りの時は24時間オンコール体制としている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による心理的ダメージを最小限にする為、入院中は週2～3回以上、面会し病院看護師と情報交換を行っている。退院については、受け入れ体制が整い次第、速やかに受け入れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ対象者はいないが、終末期における同意書をご利用者様及びご家族とかわし、医療･介護･ご家族との連携が、ご利用者様本位になるように取り組んでいる。	入所の初期の段階で、看取り等のターミナルケアについては、書面で説明し、本人家族の意向に沿えるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師により、初期の応急手当の研修会を実施し、職員のレベルアップを図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で、災害時の協力体制が取れるようにお願いしている。	消防署の指導の下、年二回の災害訓練を実施しており、地域住民には「助け人」をお願いし、防災体制を地域と一体になって取り組んでいる。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという気持ちを持って接し、プライバシーに配慮した対応を行っている。	利用者も介護者も地域の出身者や生活者であり、馴染の関係も強いが、馴れ合いを排して人格の尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	伝えたいこと、思いを日常生活の中で汲み取り、一人一人の能力に応じて、選択の幅や言葉かけを考え、場面の提供を行う。答えを急がせず待つ姿勢を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間の流れは決まっている。外出など時間帯によっては希望に添えない事もあるが、出来る限りご利用者様のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが出来るよう配慮している。(季節に合った服装･整髪)ひな祭りには、お化粧をして写真撮影し居室に飾っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや盛り付けを一緒に行う事で、食事への楽しみが持てるよう支援している。誕生会は、本人が何を食べたいのかを確認し反映している。行事食は、バイキングを試みたり、器等にも工夫し、雰囲気を大切にしている。	利用者には、食事の下ごしらえから盛り付け、配下膳など、能力に合わせたお手伝いをお願いし、行事食や外食等も取り入れるなど、職員と共に楽しい食事となるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の状態に合わせて、普通食･お粥･スライス食を提供している。水分に関しては、1日1000mlを目標としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。義歯の取り外し等、自分で出来ることは行ってもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間ごとに声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を重視している。オムツはずしに努めている。	日々の生活からその排泄の合図を見逃さずに、トイレでの排泄を目指して取り組み、オムツを使用しないケアに向けて、職員一同で努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のしやすい方には、牛乳等便通に良いとされている食物の摂取を促し、排便時に腹部のマッサージを行い、自然排便を促している。それでも便秘が解消されない際は、医師と相談しながら、下剤を使用し、出来るだけ身体に負担のかからない対応を心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の生活リズムを考慮し、時間帯を設定している。また、体調不良などで入浴出来ない場合は、日を改めて入浴している。	週二回以上の入浴を目指しており、一人ひとりに対し、新しいお湯の入れ替えを実施しており、気持ちのいいお風呂となるように工夫しながら臨んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムや習慣、状況に応じて支援している。また、眠れない時は安心する声掛けや話を聞いたり、時には添い寝をしたり、ホットミルクを提供する等の工夫を行い、安心して眠れる環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個別に保管しており、薬についての把握や確認が出来る様、処方時の説明書もファイルしている。日々の状態変化にも注意し、定期的にかかりつけ医に報告･相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や縫い物など、一人一人の生活歴や力を活かした役割を担ってもらっている。毎日のレクリエーションを工夫し、笑顔で楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や健康状態を考慮し、外気浴や散歩などの外出の機会を作っている。病院受診時も外出の機会とし、買い物を行っている。	事業所の周りに畑を用意しており、いつでも花や野菜作りに触れることが出来るように支援しており，また外気浴は毎日のように実施しており、利用者の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に対し、持参していないと不安がる方は、ご家族と相談し小額自己管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に電話をかけられる体制がある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、行事の際に写した写真や、季節に合わせた飾りを掲示している。ご利用者様・ご家族も鑑賞出来るよう配慮している。車イスでも安全に移動が出来るように工夫している。浴槽を深めに設置し、温泉気分を味わえるようにしている。	さほど大きくはないが、落ち着いた居間には大きな窓からの採光も充分に入り、季節の飾りつけなども目立たぬ程度であり、心静かな空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓テーブル、ソファーがあり、気の合ったご利用者様同士で過ごす事が出来るよう配慮している。居室以外でも一人になれたり、思い思いに過ごせる場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや布団、ぬいぐるみ等を持ち込み、居心地良く安心して過ごせるよう努めている。	居室には慣れ親しんだ家財や写真、ぬいぐるみなども見られ、心地の良い居室になるよう工夫を凝らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、廊下・トイレ内等に手すりを設置しており、歩行訓練時や排泄時等、安全に移動出来る様に配慮している。必要時には、離床センサーを使用し、転倒防止に努めている。		